

翻印
校編
冊

日本畧史

上

T1A1

26

(K139)

師範學校編輯

日本畧史

明治元年 文部省刊行

日本畧史

凡例

小學生徒ハ受業ノ時間ニ定期アルヲ以テ授ク
ル所ノ書皆簡略ヲ主トス故ニ此編ニハ神代及
御諱山陵等ヲ省キテ文中ニ御奉給等ノ文字ヲ
缺ク其ノ紙張ヲ減セシムコトヲ欲スルハナリ
飯豐天皇ヲ歷代ニ列セサルハ古事記及日本紀
ニ據ル

長慶天皇ハ新纂集ノ序ニ據リテ亦歷代ニ列セ
ス

遣唐使遣新羅使ノ類ハ事故アルニ非レハコレ
ヲ省ク諸臣ノ官位及其ノ姓ヲ記サ、ルモ亦簡
略ヲ主トスレハトリ

日本略史上卷

木村正辭 編

那珂通高 訂

第一代神武天皇ハ天照大神五世ノ孫ニシテ、鷦鷯
草葺不合尊ノ子ナリ、

天祖天照大神ノ子ヲ天忍穗耳尊ト稱ス、天忍
穗耳尊彦火瓊々杵尊ヲ生ム、天祖高天原ニ在
リテ、武甕槌、經津主ノ二神ニ命シ、葦原中國ヲ、
日本國ノ平定セシメ、皇孫彦火瓊々杵尊ニ賜
古名ナリ、三種ノ神器ヲ以テシ、其ノ國ニ降ラシメ

テ、主トス、彦火瓊々杵尊、日向國ニ居リ、彦火々
出見尊ヲ生ム、彦火々出見尊ノ子ハ、卽、鸕鷀草
葺不合尊ナリ

天皇生ナガラニシテ、明達ナリ、年十五ノ時ニ立
チテ、太子トナリ、後倭、橿原宮ニ治ス、○初天皇日
向ニ在リテ、諸兄及皇子等ニ告グテ曰ク、昔天神
此豐葦原瑞穗國

日本國ノ古名ナリヲ、我が天祖ニ授ケシ

ヨリ、降リテ、西偏ニ居ルコト、多ク年所ヲ歷タリ、
獨奈何セン、遼邈ノ地、未王澤ニ露ハズ、邑ニ君ア
リ、村ニ長アリ、以テ相陵轢スルヲ、吾將ニ東征シ

テ都ヲ中州ニ定メ、以テ天業ヲ恢キテ、新ニトヲ
欲スト、乃親皇族ヲ帥井テ、舟師東ヲ指シ、筑紫安
藝、吉備等ノ國ヲ經テ、難波ヨリ、河内ニ到リ、倭ニ
入ラントス、長髓彦ト云フ者アリ、衆ヲ悉シテ、コ
レヲ拒ク、皇軍利アラズ、ヨリテ、轉ジテ、路ヲ紀伊
ニ取リ、丹敷戸畔ヲ荒坂津ニ誅シ、頭八咫鳥ヲ以
テ、鄉導トシ、菟田下縣ニ至リ、兄猾ヲ誅シ、又兄磯
城等ヲ斬リ、遂ニ長髓彦ヲ征ス、是ヨリ先饒速日
命、天ヨリ降リテ、倭ニ居ル、長髓彦コレヲ奉シテ
主トシ、皇軍ニ抗ス、是ニ於テ、饒速日命、長髓彦ヲ



神武
天皇
東征
關

殺シテ降リ、中州悉平ス
天皇、乃宮ヲ倭畝火糧原
ニ經營シテ、帝位ニ即ス
寔ニ、辛酉ノ年ナリ、明治
五年十一月、詔シテ、太陰
曆ヲ廢シ、太陽曆ヲ用キ、
此ノ歲ヲ以テ、紀元トス、
即、今明治七年ヲ距ルコ
ト、二千五百三十四年ナ
リ、○天皇、在位、七十六年

ニシテ崩ズ、年百二十七

第二代綏靖天皇ハ、神武天皇ノ子ナリ、天皇ノ庶
兄、手研耳、命陰ニ不軌ヲ圖ル、天皇コレヲ覺リテ、
同母兄、神八井耳、命ト謀リ、コレヲ誅ス、○葛城ニ
都スコレテ、高岡宮トイス、在位三十三年ニシテ
崩ズ、年八十四、

第三代安寧天皇ハ、綏靖天皇ノ子ナリ、都ヲ片鹽
ニ遷スコレテ、浮穴宮トイス、在位三十八年ニシ
テ崩ズ、年五十七

第四代懿德天皇ハ、安寧天皇ノ子ナリ、都ヲ輕ニ

遷ス、コレヲ、曲峽宮トイフ、在位三十四年ニシテ
崩ズ、年七十七、

第五代、孝昭天皇ハ、懿德天皇ノ子ナリ、都ヲ掖上
ニ遷ス、コレヲ、池心宮トイフ、在位八十三年ニシ
テ崩ズ、年百十四、

第六代、孝安天皇ハ、孝昭天皇ノ子ナリ、都ヲ室ニ
遷ス、コレヲ、秋津島宮トイフ、在位百二年ニシテ
崩ズ、年百三十七、

第七代、孝靈天皇ハ、孝安天皇ノ子ナリ、都ヲ黒田
ニ遷ス、コレヲ、廬戸宮トイフ、在位七十六年ニシ

テ崩ズ、年百二十八、

第八代、孝元天皇ハ、孝靈天皇ノ子ナリ、都ヲ輕ニ
遷ス、コレヲ、境原宮トイフ、在位五十七年ニシテ
崩ズ、年百十六、

第九代、開化天皇ハ、孝元天皇ノ子ナリ、都ヲ春日
ニ遷ス、コレヲ、率川宮トイフ、在位六十年ニシテ
崩ズ、年百十五、

第十代、崇神天皇ハ、開化天皇ノ子ナリ、都ヲ磯城
ニ遷ス、コレヲ、瑞籬宮トイフ、天皇神祇ヲ尊崇シ
皇女豐鍬入姫命ヲシテ、天照大神ヲ倭ノ笠縫邑

ニ、祀ラシム、初大神、寶鏡ヲ皇孫ニ賜ヒテコレヲ
殿内ニ奉ゼシム、是ニ至リテ其ノ威ヲ瀆サシコ
トヲ畏ル、故ニコレヲ遷シテ別ニ鏡劍ヲ模造セ
シ、御座ニ置ク、又天社、國社ヲ定ム、○將軍ヲ北
陸、東海、吉備、丹波ノ四道ニ遣ハス會、武埴安彥反
ス、討ナテコレヲ平ク、○始メテ人民ヲ拔シテ以
テ調役ヲ課ス、又諸國ニ令レテ船舶ヲ造ラシム、
任那國始メテ來貢ス、○天皇深ク心ヲ民事ニ用
井天下大ニ治ル、民稱レテ御肇國天皇トイフ、在
位六十一年ニレテ崩ズ、年百十九、

第十一代、垂仁天皇ハ崇神天皇ノ子ナリ、都ヲ纏
向ニ遷ス、コレヲ珠城宮トイフ、○皇后狹穗姬ノ
兄、狹穗彥、不軌ヲ圖リ、皇后ヲ誘ヒ逆ヲ行ハシメ
ントス、皇后實ヲ天皇ニ告グ、天皇ハ綱田ニ命ジ
テコレヲ討タシム、狹穗彥拒守ス、皇后兄ヲ救ハ
シコトヲ欲シ、皇子譽津別尊ヲ抱キテ城中ニ投
ズ、ハ綱田火ヲ縱チテ城ヲ焚ク、皇后乃、皇子ヲ出
ダシテ兄ト共ニ城中ニ死ス、○新羅國ノ王子、天
日槍來リテ鏡、玉、刀、鉾等ヲ獻ズ、○皇女倭姫命ヲ
シテ、豐鍬入姫命ニ代ヘテ、天照大神ヲ祀ラシム、

倭姫命、神教ニ隨ヒテ、祠
ヲ伊勢ノ度會ニ遷ス、○
詔シテ、殉死ヲ禁ズ、野見
宿禰、土偶ヲ造リテ、殉ニ
代ヘムコトヲ請フ、天皇
コレヲ嘉シテ、立テ、永
制トシ、土師、臣ノ姓ヲ賜
フ、野見、宿禰、嘗テ、倭ノ當
麻蹠速ト、カラ角ベテ、コ
レニ克ツ、是、朝廷相機ノ

野見宿禰土師ヲシテ
土偶ヲ作ラシムル圖



儀ノ權輿ナリ、○天皇、在位、九十九年ニシテ崩ズ、
年百三十九

第十二代、景行天皇ハ、垂仁天皇ノ子ナリ、纏向ニ
都ス、コレヲ日代宮トイス、○筑紫ノ熊襲反ス、天
皇親征シテ、コレヲ平ダ、既ニシテ熊襲再反ス、皇
子、日本武尊ヲシテ、コレヲ討タシム、皇子、時ニ年
十六、女装シテ、賊巢ニ入り、其ノ酋ヲ刺ス、餘衆咸
服ス、又皇子ヲシテ、東夷ヲ征セシム、皇子、乃、伊勢
ニ到リテ、神宮ヲ拜ス、倭姫命、授ルニ、叢雲劍、及、燧
袋ヲ以テス、皇子、駿河國ニ到ル、虜伴リ降リテ、皇

子ヲ誘ヒ、燔燬モシメ、火ヲ放チ、其ノ野ヲ焚ク。皇
子、燧ヲ以テ、火ヲ出ダシ、コレヲ逆ヘ、燒キ、劍ヲ挺
キ、草ヲ薙ギ、頼リテ以テ、免ル。コトヲ得タリ、
是ヨリ、叢雲劍ヲ改メテ、草薙劍トイフ。今、猶、熱田
ノ神宮ニ祀ル者、是ナリ。皇子、遂ニ進ミテ、相摸ヨ
リ、上總ニ航セントス。海上、暴風ニ遇ス。妃、橘媛神
ニ祈リテ、海ニ投ス。暴風即止ム。船岸ニ達スルコ
トヲ得タリ。皇子、進ミテ、蝦夷ノ境ニ到ル。賊皆風
ヲ望ミテ、降り、邊境悉ク平ク。皇子、還リテ、碓日嶺ニ
登リ、東南ヲ顧ミ、橘媛ヲ追慕シ、歎シテ曰ク、吾孀

者耶ト。山東ノ諸國、コレニ因リテ、今猶、吾孀國今東

國ト稱ス。皇子、伊吹山ニ至リ、山神ノ毒氣ニ中

リテ病ム。乃、夷倭ヲ、伊勢ノ神宮ニ獻シ、吉備武彦

ヲシテ、京ニ復命セシメ、遂ニ、伊勢ノ能褒野ニ薨

ズ。時ニ、年三十。天皇、大ニ悼惜シ、其ノ功ヲ録シテ、

武部ヲ定ム。○天皇、近江國ニ幸シテ、志賀ニ居ル

コト三年、コレヲ、高穴穗宮トイフ。在位、六十年ニ

シテ崩ズ。年百四十三

第十三代、成務天皇ハ、景行天皇ノ子ナリ。高穴穗

宮ニ即位ス。武内ヲ大臣トス。大臣ヲ置クコト、此

ニ始マル、國郡ニ造長ヲ立テ、縣邑ニ稻置ヲ置キ、
山河ヲ界ヒテ、國縣ヲ分ツ、在位、六十年ニシテ崩
ス、享年未_タ詳
ナラズ、

第十四代、仲哀天皇ハ、景行天皇ノ孫ニシテ、日本
武尊ノ第二子ナリ、大伴武以_リ、大連トス、大連ヲ
置クコト、此ニ始マル、天皇、皇后ト、越前ノ角鹿ニ
幸ス既ニシテ、皇后ヲ留メテ、紀伊ニ巡狩ス、會熊
襲反ス、天皇親征シテ、長門ニ至リ、宮室ヲ造リテ、
コレニ居ル、コレヲ豐浦宮トイフ、皇后モ亦至ル、
與ニ進ミテ筑紫ニ幸レ、香椎宮ニ居リ、群臣ヲ會

シテ議ス、時ニ神ノリ、皇后ニ憑リテ曰ク、熊襲ノ
如キハ、師旅ヲ勞スルニ足ラズ、西方ニ寶國アリ、
新羅トイフ、モン能ク我ヲ祭ラバ、其ノ國必服シ
テ、熊襲モ亦自從ハント、天皇信ゼズ、數月ヲ歷テ、
香椎宮ニ崩_ル、在位九年、享年未_タ詳
ナラズ、

第十五代神功皇后ハ、仲哀天皇ノ后、開化天皇ノ
五世ノ孫ニシテ、氣長宿禰王ノ女ナリ、磐余ニ都
ス、コレヲ若櫻宮トイフ、○皇后、仲哀天皇ノ崩ス
ルニ及ビテ、大臣武内ト謀リ、秘シテ喪ヲ發セズ、
神教ヲ奉ジテ、西征セントス、會身タルコト有_リ



テ、産月ニ當ル、乃石ヲ腰
ニ捕ミ、祝シテ曰ク、願
ハ、事竟ヘテ還ラム日ニ
茲土ニ婉セシメヨト、遂
ニ新羅ヲ征ス、新羅王出
デ、降リ、金銀、絹帛ヲ、船
八十艘ニ載セテ獻ズ、コ
レヲ調貢ノ定額トス、是
ヲ於テ、高麗、百濟ノ二國
王モ、亦降ル、コレヲ三韓

トイフ、今ノ朝鮮國是ナリ、皇后因リテ官家ヲ置
キ、還リテ筑紫ニ到リ、皇子ヲ産ム、是應神天皇ナ
リ、皇后朝ニ臨ミ、政ヲ攝スルコト、六十九年ニシ
テ崩ス、年一百、

第十六代應神天皇ハ、仲哀天皇ノ子ナリ、輕島ニ
都ス、コレヲ豐明宮トイフ、皇太后ノ攝政三年ニ
立チテ太子トナリ、此ニ至リテ即位ス、時ニ年七
十一〇、百濟王其ノ國ノ博士、王仁ヲレテ、冶工車
素、吳服、西素等ヲ率井テ入朝セシメ、論語及千字
文ヲ獻ス、皇子菟道稚郎子、王仁ヲ師トシテ學ハ、

高麗ノ使者來リテ表ヲ上ル一及ヒテ稚郎子其
文ヲ以テ倭嬬ナリトシ、奏シテ使者ヲ責メ表ヲ
壞ル、○稚郎子ヲ立テ、皇太子トス、○天皇在位
四十一年ニシテ崩ス、年百十一、

第十七代仁德天皇ハ、應神天皇ノ子ニシテ皇太
子ノ兄ナリ、應神天皇崩スルニ及ヒテ、皇太子位
ヲ天皇ニ讓ル、天皇聽カス、位ヲ空レクスルコト
三年、皇太子、天皇ノ志奪フヘカラサルヲ知リテ、
自殺ス、是ニ於テ、天皇遂ニ即位シ、都ヲ攝津ノ難
波ニ遷ス、コレヲ高津宮トイフ、一日天皇人烟ノ

稀少ナルヲ見テ、民ノ貧シキヲ知リ、相執ヲ除ク
コト三年、百姓大ニ富ム、○難波、堀江ヲ鑿リ、池溝
ヲ通シ、堤防ヲ築ク、民皆其ノ利ニ賴ル、○蝦夷反
ス、將軍田道ヲ遣ハシテ、コレヲ征セシム、○天皇
在位八十七年ニシテ崩ス、享年未詳

第十八代履仲天皇ハ、仁德天皇ノ長子ナリ、磐余
若櫻宮ニ治ス、佳吉仲皇子反ス、瑞齒別皇子、反正天皇

コレヲ誅スニ皇子共ニ、天皇ノ弟ナリ、○天皇詔
レテ、史ヲ諸國ニ置キ、言事ヲ記シ、四方ノ志ヲ達
セシム、始メテ藏職ヲ置ク、因リテ藏部ノ定ム、在

日本略史 一
位、六年ニシテ崩ズ、享年未詳

第十九代反正天皇ハ、履中天皇ノ同母弟ナリ、都
ヲ河内ノ丹比ニ遷ス、ユ、レヲ柴籬宮トイス在位
六年ニシテ崩ズ、享年未詳

第二十代允恭天皇ハ、反正天皇ノ同母弟ナリ、都
ヲ遠飛鳥宮ニ遷ス、反正天皇崩シテ嗣無シ、群臣
迎ヘラ、天皇ヲ立ツ、天皇辭シテ許サス、群臣固ク
請フ、遂ニ即位ス、○天皇詔レテ、百官諸臣ヲ會シ
姓氏ノ詐冒ヲ正ス、在位、四十二年ニシテ崩ズ、享年未詳

第二十一代安康天皇ハ、允恭天皇ノ子ナリ、允恭
天皇、木梨輕皇子ヲ立テ、太子トス、太子淫虐ナ
ルヲ以テ、群臣望ヲ天皇ニ歸ス、太子兵ヲ集メテ、
將ニ天皇ヲ襲ハントス、天皇群臣コレヲ攻メ、
太子自殺ス、因リテ即位シ、都ヲ石上ニ遷ス、コレ
ヲ穴穗宮トイス、○天皇母弟、大泊瀬皇子雅略
天皇ノ
爲ニ、大草香皇子ノ妹幡後皇女ヲ聘セントス、使
者詐シテ、大草香皇子、詔ヲ奉ゼズト奏ス、天皇怒
リテ皇子ヲ殺シ、其ノ妃、中蒂姫ヲ取リテ、皇后ト
ス、○初皇后、大草香皇子ノ家ニ在リテ、眉輪王ヲ

生メリ、後天皇山宮ニ幸シテ、皇后ト宴ビ、醉テ寢
ヌ、王、天皇ヲ弑シテ、大臣葛城圓ノ家ニ匿ル、時ニ
年七歳ナリ、天皇、在位、三年、年五十六、

第二十二代、雄略天皇ハ、允恭天皇ノ子ナリ、天皇
峻刻ニシテ、仇健人ニ過キタリ、安康天皇ノ弑セ
ラル、ニ方リテ、天皇諸兄ヲ疑ヒ、兵ヲ率キテ、八
鈞、白彥皇子ニ迫リ、遂ニコレヲ斬リ、圓ノ弟ヲ圍
ミ、火ヲ縱テ、圓、及眉輪王ト坂合、黑彥皇子トヲ
焚殺ス、又市邊、押磐皇子、及御馬皇子ヲ殺シ、遂ニ
泊瀨朝倉宮ニ即位ス、○天皇、嘗テ葛城山ニ獵ス、

野猪突キ至ル、舍人ニ命シテ、刺レ殺サレメント
ス、舍人怖レテコレヲ避ク、天皇怒リテ、舍人ヲ弑
セントス、皇后幡媛皇女、諫ノテ曰ク、獸ノ故ヲ以
テ、人ヲ殺サバ、豈豺狼ニ異ナランヤト、天皇欣然
トシテ曰ク、人ハ禽獸ヲ獲、朕ハ善言ヲ獲タリト、
乃舍人ヲ釋ス、○天皇、皇后ニ勅シテ、親桑ヲ採ラ
シメテ、以テ蠶事ヲ勸ムル、吳人來聘、ハテ、エ女漢
織、吳織、衣縫、兄媛弟媛ヲ貢ス、○豐受、大神ヲ、丹波
ヨリ、伊勢ノ山田ニ遷シ、祀ル、天皇、在位、二十三年
ニシテ崩ズ、年六十二、

第二十三代清寧天皇ハ、雄略天皇ノ子ナリ、磐余、
 寶栗宮ニ治ス、皇弟星川皇子反ス、討テテコレヲ
 平ス、天皇嗣無キヲ憂フルト久シ、市邊押磐皇
 子ノ遺子、億計、弼計ニ王、播磨國ニ在リト聞キ、迎
 ハテ、億計王ヲ立テ、皇太子トス、○天皇在位五
 年ニシテ崩ズ、年四十一、

第二十四代顯宗天皇ハ、即弘計王ナリ、清寧天皇
 崩シテ後、皇太子位ヲ天皇ニ讓ル、天皇固辭ス、是
 ニ於テ、姑飯豐青皇女、政ヲ角刺宮ニ遷ク、九月ニ
 シテ皇女崩ズ、皇太子及大臣平群具鳥等固ク請

ス、因リテ近飛鳥ハ釣宮
 ニ即位ス、皇太子ハ仍故
 ノ如シ、○天皇父ノ害セ
 ラレシ時、尚幼ニシテ、其
 ノ墓ノアル所ヲ知ラバ、
 因リテ父老ヲ聚メ、親臨
 シテ歷問シ、遂ニコレヲ
 近江ノ來田綿城屋野ニ
 得テ、改葬ス、○天皇父シ
 ク民間ニ在リテ、百姓ノ

億計弘計王起舞圖



疾苦ヲ知ル、故ニ賦歛ヲ薄クシ、貧窮ヲ恤ム、又此年豐熟シテ、穀一斛ノ直銀錢一文ナルニ至ル、在位三年ニシテ崩ズ、年三十八、

第二十五代仁賢天皇、即億計王ナリ、石上廣高宮ニ即位ス、天皇仁惠謙恕吏ハ其ノ職ニ稱ヒ、民ハ其ノ業ヲ安クシ、戸口蕃殖ス、初顯宗天皇位ニ即キテ、雄略天皇ノ陵ヲ發キ、父ノ仇ヲ報セントス、天皇コレヲ諫メテ止ム、在位十一年ニシテ崩ズ、年五十、

第二十六代武烈天皇ハ、仁賢天皇ノ子ナリ、仁賢

天皇崩ズルニ及ビテ、大臣平群真鳥潛ニ篡奪ノ謀リ、其ノ子鮪又天皇ニ禮ナシ、是ニ於テ、大伴金村ト謀リテ父子ヲ誅シ、泊瀨列城宮ニ即位ス、○天皇刑律ヲ好ミ、法令嚴明ナリ、諸ノ酷刑親臨、サルハ無シ、民皆震怖ス、在位八年ニシテ崩ス、享年詩ナ

第二十七代繼體天皇ハ、應神天皇ノ五世ノ孫ナリ、父ヲ彦主人王トイフ、○天皇幼ニシテ孤ナリ、母ニ從ヒテ、越前ノ高向ニ居リ、長スルニ及ビテ、大度アリ、士ヲ愛ヒ、賢ヲ禮ス、武烈天皇崩シテ嗣

無レ群臣議シテ天皇ヲ迎フ天皇遂ニ河内ノ樟葉宮ニ即位ス、後又都ヲ磐余ニ遷ス、コレヲ王穗宮トイフ、近江、毛野ヲシテ、新羅ヲ代ナテ、任那ノ故地ヲ復セ、ム、筑紫國造磐井、又レテ謀ニ新羅ニ通ス、物部麤鹿火ヲシテ、討チテコレヲ平ケレム、○大皇在位、二十五年ニシテ崩ズ、年八十二、第二十八代、安閑天皇ハ、繼體天皇ノ子ナリ、都ヲ勾金橋宮ニ遷ス、在位二年ニシテ崩ズ、年七十、第二十九代、宣化天皇ハ、安閑天皇ノ同母弟ナリ、安閑天皇崩シテ嗣無シ、群臣ノ請ニ因リテ即位

シ、都ヲ、檜隈ニ遷ス、コレヲ廬入野宮トイフ、○詔レテ、筑前ノ屯倉ヲ修シ、以テ凶荒ニ備ヘシノ、在位、四年ニシテ崩ズ、年七十三

第三十代、欽明天皇ハ、繼體天皇ノ子ナリ、宣化天皇崩シテ嗣無シ、群臣議シテ、天皇ヲ迎フ、因リテ即位ス、都ノ磯城島ニ遷ス、コレヲ、金刺宮トイフ、○百濟ヨリ、佛像及經論ヲ獻ズ、天皇コレヲ、蘇我稻目ニ賜フ、會、諸國大ニ疫アリ、物部尾輿等謂ヘニ、ク、蕃神ヲ禮スルノ致ス所ナリト因リテ奏シテ、佛像ヲ難波、堀江ニ投ズ、○新羅、任那ヲ滅シ、我

官府ヲ毀シ、紀男麻呂、河邊、瓊年ヲシテ、コレヲ討タルム、瓊正、輕進シテ、利ヲ失ミ、擒ニセラル、調伊企、難コレニ死ス、○大伴狹手彦、高麗ヲ討ナテ、コレ破リ、其ノ都城ニ入リ、珍寶ヲ得テ還ル、○天皇疾アリ、後事ヲ以テ、皇太子ニ屬シテ曰ク、新羅



ヲ征シテ、任那ヲ復セヨト遂ニ崩フ、在位三十二年
享年未詳ナラス

第三十一代敏達天皇ハ、欽明天皇ノ子ナリ、都ヲ譯語田ニ遷スコレヲ幸玉宮トイフ、○天皇薨北國造ノ子日羅久シク百濟ニ在リテ、夷情ヲ知ルヲ以テ、コレヲ召シ還シ、新羅ヲ伐ツノ策ヲ問フ日羅曰ク、夷ヲ服スルノ道國本ヲ培養スルニ在リト、具ニ其ノ策ヲ陳フ天皇コレヲ嘉ス、○蘇我馬子傳ヲ信ジ、寺塔ヲ建ツ、物部守屋中臣勝海ハヲ劾奏ス、馬子病ノ爲ニ、佛ニ禱ラシコトヲ請

フ、天皇乃勅レテ曰ク、汝獨コレヲ爲ヨ、他人ニ惑ハスコトナカント、○天皇在位十四年一レテ崩ス、年四十八

第三十二代用明天皇ハ、欽明天皇ノ子ナリ、磐余ニ部ス、コレヲ、池邊雙槻宮トイフ、○敏達天皇ノ崩ズルニ及ビテ、穴穗部皇子陰ニ覬覦ヲ懷キ又殯宮ニ入リテ、其ノ皇后ヲ烝センコトヲ謀ルニ輪逆コンヲ拒ム皇子怒リテ物部守屋ヲシテ逆ヲ殺サシム、○天皇病アリ、群臣ヲレテ佛ニ禱シ、コトヲ議セシム、物部守屋中臣勝海コレヲ諫

ム、蘇我馬子詔旨ヲ賛成ス、穴穗部皇子僧ニ引キテ、宮ニ入ル守屋怒リテ、コレヲ呪ス、是ヨリ馬子ト、守屋勝海ト、怨隙滋甚シ、馬子迹見赤檮ヲシテ、勝海ヲ殺サシム、天皇在位一年ニシテ崩ス、享年未詳

第三十三代崇峻天皇ハ、欽明天皇ノ子ナリ、用明天皇崩シテ嗣無シ、物部守屋諸皇子ヲ去リテ穴穗部皇子ヲ立テントス、蘇我馬子其ノ謀ヲ聞キテ敏達天皇ノ皇后灰屋姫尊即推古天皇ナリ旨ヲ奉ジハラシニ、穴穗部皇子及宅部皇子ヲ殺サシム

又廐戸皇子ト謀リ、守屋ヲ攻メテ、其ノ族ヲ殲ス
是ニ於テ、吹屋姫尊群臣ト策ヲ定メテ、天皇ヲレ
テ、即位セシム、倉梯宮ニ治ス、○蘇我馬子專横日
ニ甚シ、天皇コレヲ疾ム、馬子懼ヒテ、東漢駒ヲレ
テ、天皇ヲ弑セシム、駒コレヨリ、馬子ノ寵ヲ時ク
其ノ女ヲ姦ス、馬子怒リ、駒ヲ殺シテ曰ク、吾君ヲ
弑シ、賊ヲ誅スト、○天皇在位五年、年七十三、
第三十四代推古天皇ハ、用明天皇ノ同母妹ナリ
敏達天皇ノ五年ニ、皇太后ナリ、是ニ至リテ、豐浦
宮ニ即位ス、後小墾田宮ニ遷ル、○廐戸皇子ヲ立

テ、太子トシ、政ヲ攝セシム、太子及蘇我馬子ニ
詔レテ、佛法ヲ興隆セシム、是ニ於テ、群臣競ヒテ
佛寺ヲ造ル、○百濟ヨリ、曆天、大地理、遁甲、方術等
ノ書ヲ獻フ、太子憲法十七條ヲ撰ス、詔シテ、爵位
十二階ヲ定ム、又天皇記、國記及諸臣、庶人等ノ本
記ヲ錄セシム、小野妹子ヲ隋ニ遣ハス、支那ト通
ズルコト此ニ始マル、池溝コ倭山背河内ニ作リ、
凡毎ニ屯倉ヲ置ク、在位三十六年ニシテ、崩ズ、年
七十五、遺詔シテ、厚ク葬ルコト勿カラシム、
第三十五代舒明天皇ハ、敏達天皇ノ孫ニレテ、押

坂戸人、大兄皇子ノ子ナ
 リ、都ヲ飛鳥岡ニ遷スコ
 レヲ岡本宮トイフ。○蝦
 夷反ス、上毛野形名ヲレ
 テ討チテコレヲ平ケレ
 夫其ノ妻、夫ヲ助ケテ功
 フリ、○始メテ斗升斤量
 ヲ定ム。○天皇在位十三
 年ニシテ崩ズ、享年未詳
 第三十六代皇極天皇ハ、



敏達天皇ノ曾孫ニシテ、弟淳王ノ女ナリ舒明天
 皇ノ二年ニ、皇后トナリ是ニ至リテ即位ス飛鳥
 振蓋宮ニ治ス。○蘇我蝦夷ノ子、入鹿政ヲ擅ニシ、
 皇子相與ニ、不軌ヲ謀ル、中大兄皇子、天皇中臣鎌
 足等ト謀リテ、父子ヲ誅ス、蝦夷誅セラハ、ニ臨
 ミテ、悉、天皇記、國記、及、珍寶ヲ焚ク、船惠尺、國記ヲ
 火中ヨリ取リテ、中大兄皇子奉ル。○天皇位ヨ
 皇子孝德天皇ニ譲ル、在位三年、
 第三十七代孝德天皇ハ、皇極天皇ノ同母弟ナリ、
 中大兄皇子ヲ立テ、皇太子トス、都ヲ難波長柄賣

時ニ遷ス、此ノ時始メテ、年號ヲ建テ、大化トイ
フ、神武天皇卽位紀元ノ年ノ距ルコト一千三百
五年ナリ、○鐘匱ヲ朝ニ設ケテ、冤枉ヲ訴ヘシメ、
畿内ヲ定メ、關驛ヲ建テ、國造ヲ罷メ、國司郡司ヲ
置キ、國界ヲ分チ、田制ヲ定メ、租庸調ノ法ヲ制シ、
又冠十三階ヲ定メ、更ニ十九階ヲ制シ、八省百官
ヲ置ク、國家ノ制度大ニ備ハル、在位十年ニシテ
崩ス、年五十九、

第三十八代齊明天皇ハ、皇極天皇重祚ノ號ナリ、
飛鳥板蓋宮ニ卽位シテ、明年、飛鳥岡本宮ニ遷ル、

コレヲ後飛鳥岡本宮ト云フ、○阿倍比羅夫舟師
ヲ率ヰテ蝦夷ヲ征シ、遂ニ肅慎ヲ伐ク、○有間皇
子反ヲ謀ル事發シニ誅シ伏ス、○新羅兵ヲ唐國
ニ借りテ、百濟ヲ伐ツ、天皇コレヲ救ハルコトヲ
欲シテ、親舟師ヲ帥ヰ、西州ニ幸シ、遂ニ筑紫朝倉
宮ニ崩ス、在位七年、前後合セテ、十年ナリ、年六十
八、

第三十九代天智天皇ハ、舒明天皇ノ子ナリ、都ヲ
近江國ニ遷ス、コレヲ大津宮トイフ、○天皇至孝
ニシテ、先帝ヲ殯スルコト六年、明年ニ至リテ、始

メテ即位ノ禮ヲ行フ、○敕シテ冠位二十六階ヲ
制ス、○中臣鎌足ヲ大臣ニ任シ、大織冠ニ叙シ、藤
原氏ヲ賜フ、大友皇子弘文天皇ヲ太政大臣トス、太政
大臣、此ニ始マル侍臣ニ詔レテ、律令ヲ撰ビ、戶籍
ノ法ヲ定メシム、又大堤ヲ筑紫ニ築キテ、水ヲ貯
フ、名ケテ水城ト云フ、始メテ、御製ノ漏刻ヲ置キ、
鐘鼓ヲ擊テテ、以テ時ヲ報ゼシム、○天皇病アリ、
皇太弟、大海人皇子天武天皇ヲ召レテ、屬スルニ後事
ヲ以テス、皇太弟、疾ト稱シ、固辭シテ僧トナリ吉
野ニ入ル、是ニ於テ、大友皇子ヲ皇太子トス、天皇

文學ヲ好ミ、治體ヲ明ニシ、學校ヲ興ヒ、典禮ヲ制

ス、其文物憲章粲然トシテ觀ルベシ、在位十年ニ

シテ崩ズ、年四十六、

第四十代弘文天皇ハ、天智天皇ノ子ナリ、大津宮

ニ即位ス、尋テ大海人皇子、兵ヲ舉ゲ、天皇コレヲ

征シテ克タズ、近江國長等ノ山前ニ崩ズ、コレヲ

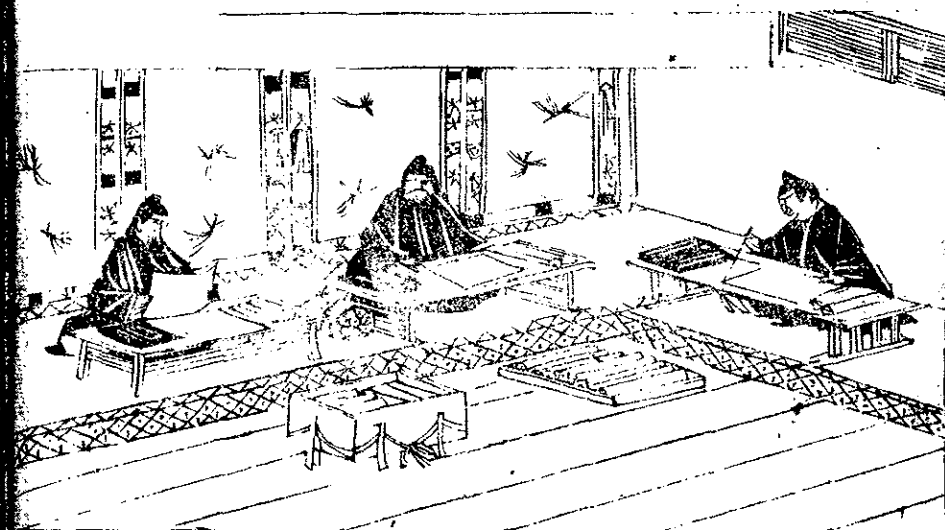
壬申ノ亂トイフ、在位七月、年二十五、明治三年、始

メテ諡ヲ上ル、

第四十一代天武天皇ハ、天智天皇ノ同母弟ナリ

飛鳥浄見原宮ニ即位ス、詔シテ律令ヲ定メ、帝紀

律令ヲ定メ帝紀ヲ撰圖



及上古ノ事ヲ撰録セシメ、親王ヨリ庶人ニ至ルマテ人服色ヲ分チ天下諸氏ノ姓ヲ定メテ、八種トシ、爵位ノ制ヲ改メテ、諸王ニ十二階諸臣ニ四十八階トス、○諸國ノ境域ヲ定ム、○天皇在位十五年ニシテ崩ス、享年未詳

第四十二代持統天皇ハ天智天皇ノ女ニシテ、天武天皇ノ皇后ナリ、天武天皇崩スルニ及ビテ朝ニ臨ミ政ヲ聽ク後三年、皇太子草壁薨ズ因リテ即位シ、藤原宮ニ治ム、○人津皇子、反ヲ謀リ、事發シテ死ヲ賜フ、○詔シテ服色ヲ定メテ七種トシ、朝堂座上ノ禮ヲ制ス、始ノテ元嘉曆ト、儀鳳曆トヲ行フ、又陣法博シテ諸國ニ遣ハレテ武ヲ講セシム、○天皇位ヲ珂瑠皇子文武天皇ニ讓ル、在位十年、大寶二年十二月崩ズ、年五十八

第四十三代文武天皇ハ岡宮天皇天武帝ノ太子草壁皇子ノ

子ナリ、藤原宮ニ即位ス、持統天皇ヲ尊ビテ太上天皇ト稱ス、太上天皇ノ號此ニ始マル○詔シテ官名位號、服色ヲ改メ、位記ヲ用ヰテ、位冠ヲ賜ノコトヲ傳ム、律令ヲ撰定シ、新律度量ヲ頒ツ、又田租ノ法ヲ定ム、在位十一年ニシテ崩ス、年二十五

第四十四代、元明天皇ハ、天智天皇ノ女ニシテ、文武天皇ノ母ニリ、都ヲ平城ニ遷ス、以下光仁天皇トセ代○陸奥越後ノ蝦夷反ス、伐ナテコレヲ平ジ○始メテ都亭驛ヲ置キ、又批文師ヲ、諸國ニ遣ハシテ、錦綾ヲ織ルコトヲ教ヘシム、○太、安祿

ヲ、古事記ヲ上ツル、又諸國ニ詔シテ、風土記ヲ奉ラシメ、郡鄉ノ名務メテ佳字ヲ用ヰシム、○使ヲ七道ニ遣ハシテ、囚徒ヲ録セシム、○陸奥出羽ノ蝦夷、南島ノ奄美、夜久、度感、信覺、球美等ノ人、來朝シテ、方物ヲ獻ズ、○天皇位ヲ永高内親王元正ニ禪ル、在位七年、養老五年十二月崩ス、年六十一

第四十五代、元正天皇ハ、文武天皇ノ姁ナリ、○諸國ニ令シテ、調庸ノ斤兩長短ヲ定メ、諸帳簿ノ式ヲ頒ツ、又藤原不比等等ニ敕シテ、律令ヲ修メシメ、國內ノ百姓ヲシテ、社ヲ右ニセシム、○始メテ、

諸國ニ按察使ヲ置キ、又渡島、津輕、津司等ニ、靺鞨
國ニ遣ハレテ、其ノ風俗ヲ觀ヤシム、○舍人、親王、
日本紀三十卷、系圖一卷ヲ上クル、○蝦夷反ス、丹
治比縣守等ヲシテ、討ナデコレヲ平ゲシム、○天
皇、位ヲ首皇子聖武天皇ニ禪ル、在位九年、天平二十年
四月崩ズ、年六十九、

第四十六代聖武天皇ハ、文武天皇ノ子ナリ、○蝦
夷反ス、藤原宇合等ヲシテ、討チテコレヲ平ゲレ
ハ、○始メテ畿内、總管諸道鎮撫使ヲ置キ、尋テ節
度使ヲ置ク、○新羅來朝ノ期、三年ニ一タビスル

コトヲ許ス、○藤原廣嗣反ス、大野東人ヲシテ討
チテコレヲ平ケシム、○天皇、佛法ヲ尊崇シ、萬シ
僧侶ヲ敬ス、金銅盧舍那佛ノ大像ヲ造ル、出家シ
テ、自、勝滿ト稱ス、在位二十五年ニシテ位ヲ阿倍
皇女孝謙天皇ニ禪リ、天平勝寶八歲五月崩ズ、年五十
六、

第四十七代孝謙天皇ハ、聖武天皇ノ女ナリ、始メ
テ、紫微内相ヲ置キ、藤原仲麻呂ヲ以テ、コレニ任
シ、内外諸兵事ヲ掌ラシム、橘奈良麻呂其ノ權ヲ
專ニスルヲ惡ミ、コレヲ除カンコトヲ欲シ、遂ニ

廢立ヲ謀ル事泄レテ獄ニ下リ黨與罪ヲ得ル者
衆シ時ニ藤原豐成右大臣タリ寛厚ニシテ時望
ヲ得仲麻呂コレヲ忌ミ遂ニ豐成ヲ誣ヒテ其ノ
黨ナリトス因リテ太宰員外帥ニ貶ス是ヨリ仲
麻呂益横肆ナリ○天皇在位十年ニシテ大
次皇子淳仁ニ讓ル

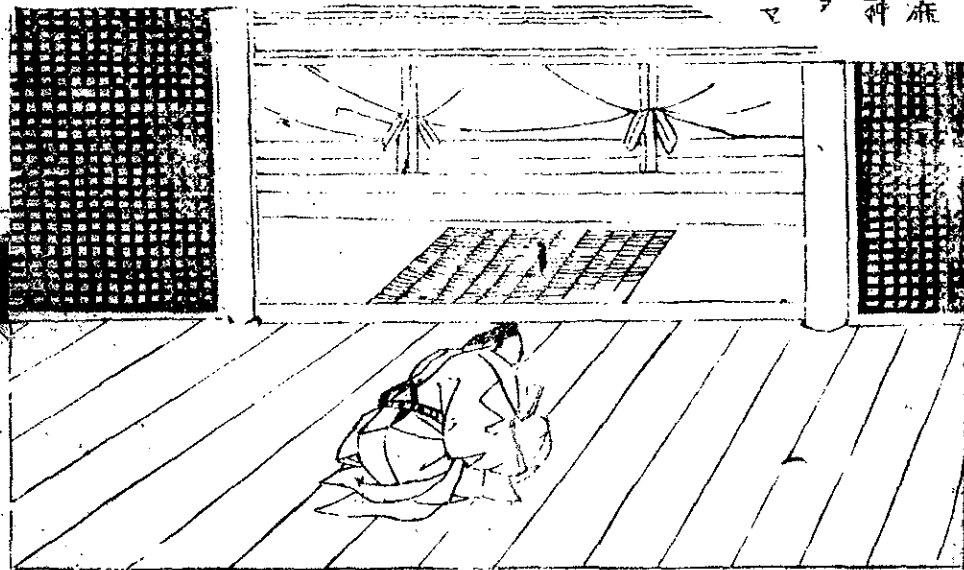
第四十八代淳仁天皇ハ崇道盡敬皇帝天武帝ノ子舍人ノ親王
ノ子ナリ○仲麻呂等一詔シテ官制ヲ改メシ
ム又仲麻呂ニ名ヲ押勝ト賜ミ姓ニ惠美ノ二字
ヲ加ス○國司ノ交替六年ヲ以テ限トシ三年毎

ニ巡察使ヲ遣ハレテ治績ヲ檢校セリ○初上
皇孝謙天皇押勝ヲ寵ス既ニシテ僧道鏡ヲ近ツク天
皇屢以テ言ヲナス上皇憚バス五位以上ヲ朝ニ
召シ親國家ノ大事ヲ決ス押勝道鏡ノ爲ニ其寵
ヲ奪ハレレコトヲ懼レ奏レテ四畿内臣勢美濃
越前近江丹波播磨ノ國人兵事都督ヲ請ヒ遂ニ
近江ニ據リテ反シ鹽燒王ヲ立テ帝ト稱ス藤
原茂下麻呂ヲレテ討チアコレヲ誅セシム上皇
詔シテ道鏡ヲ大臣禪師トシ封戸職分田皆大臣
ニ準ス天皇ヲ廢ヒテ淡路公トシ其ノ國ニ遷ス

世ニ淡路廢帝ト稱ス○天皇在位六年、天平神護元年十月淡路ニ崩ズ、年三十三、後明治三年謚ヲ上ル、

第四十九代稱德天皇ハ、孝謙天皇重祚ノ號ナリ、天皇既ニ佛ニ歸シ、是ニ至リテ、復萬機ニ臨メリ、和氣王反ヲ謀リ事發シテ誅ニ伏ス、詔シテ、道鏡ヲ以テ太政大臣禪師トシ、文武百官ヲシテ拜賀セシム、尋テ法モノ位ヲ授ケ、興服飲食、皆供御一擬セシメ、大小ノ政其決ヲ取ラサルハ無シ、會太宰ノ主神習宜阿曾麻呂宇佐八幡大神ノ託宜

清麻呂神教請圖



ト矯リ道鏡ヲレテ、位ニ即カンノバ、天下泰平ナラント奏ス、是ニ於テ、天皇和氣清麻呂ヲ宇佐ニ遣ハレテ、神教ヲ請ハシ、ハ發スルニ臨ミテ、道鏡又示スニ恩威ヲ以テレ其ノ非望ヲ遂ケンコトヲ欲ス、清麻呂歸リテ神語ヲ奏レテ曰ク、我が國

開闢以來君臣ノ分定レリ、未_レ臣ヲ以テ君トセ
コトアラズ、天_ノ日嗣ハ、必皇緒ヲ立テ、早ク無道
ノ人ヲ除ケト、道鏡怒リテ、清麻呂ヲ大隅ニ流シ
入ラシテ、コレヲ途ニ殺サレハレトシテ、能ハス
○天皇在位五年、前後合セテ、十五年ニシテ崩ス
年五十三、

第五十代光仁天皇ハ、天智天皇ノ孫ニシテ、春日
宮_{施基}天皇_{親王}ノ子ナリ、天皇、天平勝寶以來國ニ儲
貳無クシテ、人々相疑ヒ横禍ニ罹ル者多キヲ慮
リ酒ヲ縱ニシテ、自晦ス、稱徳天皇崩ズルニ及ヒ

テ遺詔ヲ奉ジ即位シ、道鏡ヲ遣下野藥師寺別當
ニ貶シ、清麻呂ノ召還レテ、本位ニ復ス、○詔シテ、
内外ノ官員ヲ省ク又、三關邊要ノ外ハ、悉諸國ハ
元兵ヲ除キコレヲシテ、農耕ニ就カシム、三關ト
ハ、伊勢ノ鈴鹿、美濃ノ不破越前ノ愛發ナリ、○天
皇、在位十二年ニシテ、位ヲ皇太子ニ譲リ、尋テ崩
ズ、年七十三、

第五十一代桓武天皇ハ、光仁天皇ノ子ナリ、都ヲ
山城ニ遷レテ、コレヲ平安城トイフ、ユレヨリ以
後歷代ノ皇居タリ、○淡海三船ヲシテ、神武天皇

ニ、以來列朝ノ謚號ヲ定メレム。○詔シテ三關
ヲ廢シ公私ノ往來ニ便ス。是ノ時蝦夷數反ス大
伴弟麻呂、坂上田村麻呂等ヲシテ討ナデコレヲ
平クシム。○菅野真道等續日本紀ノ上ハ、天皇在
位二十二年ニシテ崩ズ、年七十。

第五十二代、平城天皇ハ、桓武天皇ノ子ナリ。○皇
弟伊豫親王、反ヲ謀ルト告ル者アリ、因リテ死ヲ
賜ヒ、其ノ黨ヲ流ニ處ス。○天皇在位四年ニシテ
位ヲ皇太弟ニ讓ル。天長元年七月崩ズ、年五十一。
第五十三代、嵯峨天皇ハ平城天皇ノ同母弟ナリ、

○尚侍藥子、平城上皇ニ復辟ヲ勸メ、旨ヲ齎メテ
都ヲ平城ニ遷サントシ、人心騷然タリ、天皇詔シ
テ、藥子ノ罪ヲ暴白シ、其ノ兄藤原仲成ヲ收メ、上
皇怒リテ、兵ヲ率テ東國ニ入ラシトス。天皇乃、仲
成ヲ誅シ、兵ヲ遣ハシテ、上皇ヲ路ニ邀キラシム。
上皇進ムコトヲ得ズ、因リテ宮ニ還リ、剃髮シ、藥
子自盡シテ、事平ゲリ。○天皇博學ニシテ文ヲ能
クシ、書ヲ巧ニス。在位十四年ニシテ位ヲ皇太弟
ニ讓ル。承和九年七月崩ズ、年五十五。

第五十四代、淳和天皇ハ、嵯峨天皇ノ弟ナリ。○清

原夏野等ニ敕シテ、令義解ヲ撰ハシム。○夏野奏
シテ、親王ヲ諸國守トシ、庶務ヲ習メレム。ト
テ請フ。是ニ於テ、上總、常陸、上野ヲ以テ、親王ノ仕
國トス。○天皇在位十年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓
ル。承和七年五月崩ス。年五十五。
第五十五代、仁明天皇ハ、嵯峨天皇ノ子ナリ。○伴
健岑、攝逸勢等、陰ニ太子恒貞ヲ奉ジテ、天皇ヲ廢
セシム。トテ謀リ、事發ル。因ツテ太子ヲ廢シ、健岑
逸勢ヲ流ニ處ス。○日本後紀成ル。○天皇在位十
七年ニシテ崩ズ。年四十一。

第五十六代、文德天皇ハ、仁明天皇ノ子ナリ。天皇
資性明察、心ヲ政事ニ留メテ、能ク人ノ姦ヲ知ル。
但多病ナルヲ以テ、事ヲ親ルコトアタハズ。在位
僅ニ八年ニシテ崩ズ。時人コレヲ惜ム。年三十二。
第五十七代、清和天皇ハ、文德天皇ノ子ナリ。天皇
九歲ニシテ即位ス。政ヲ藤原良房ニ攝セシム。其
ノ外祖タルヲ以テナリ。既ニシテ、良房薨ス。天皇
政ヲ親シ。日萬機ヲ紫宸殿ニ視ル。是ヲ以テ、内外
肅然トシテ、國家寧靜ニリ。○貞觀格式及續日本
後紀成ル。○天皇在位十八年ニシテ、位ヲ皇太子

ニ讓ル、元慶四年十二月崩ス、年三十一
第五十八代陽成天皇ハ、清和天皇ノ子ナリ、天皇
十歳ニシテ即位ス、藤原基經政ヲ奏ス、良房ノ例
ニ沿カヘルナリ、○出羽ノ夷俘反ス、藤原保則小
野春風等ヲシテ討チテコレヲ平ケシム、○文德
天皇實錄成ル、○天皇遊嬉度無ク、屢不羣ヲ殺ス
是ニ於テ、基經公卿ト謀リ、天皇ニ請ヒテ、位ヲ讓
ラシム、是ノ時年十七、在位八年ナリ、天曆三年九
月崩ス、年八十二

第五十九代光孝天皇ハ、仁明天皇ノ子ナリ、○天

皇謙恭、虎仁ナリ、故ニ、基經群臣ト迎ヘテ、コレヲ
立ツ、○公卿奏シテ、五位以上ノ封祿ヲ減センコ
トヲ請フ、許サズ、軟シテ、御服ノ絹綿ノ數ヲ減ス
○天皇在位三年ニシテ崩ス、年五十八
第六十代、宇多天皇ハ、光孝天皇ノ子ナリ、○詔シ
テ、萬機巨細ト無ク、一切基經ニ關白セシム、關白
此ニ始マル、尋テ、又ニ宮ニ準メ、○天皇嘗テ畫ニ
ヲシテ、殷周以來ノ名臣ノ像ヲ、紫宸殿ノ障子ニ
圖セシム、コレヲ賢聖障子トイフ、在位十年ニシ
テ、位ヲ皇太子ニ讓ル、承平元年七月崩ス、年六十

五

第六十一代醍醐天皇ハ

宇多天皇ノ子ナリ、○藤

原時平、菅原道真ト共ニ

政ニ執ル、道真、庶務ヲ綜

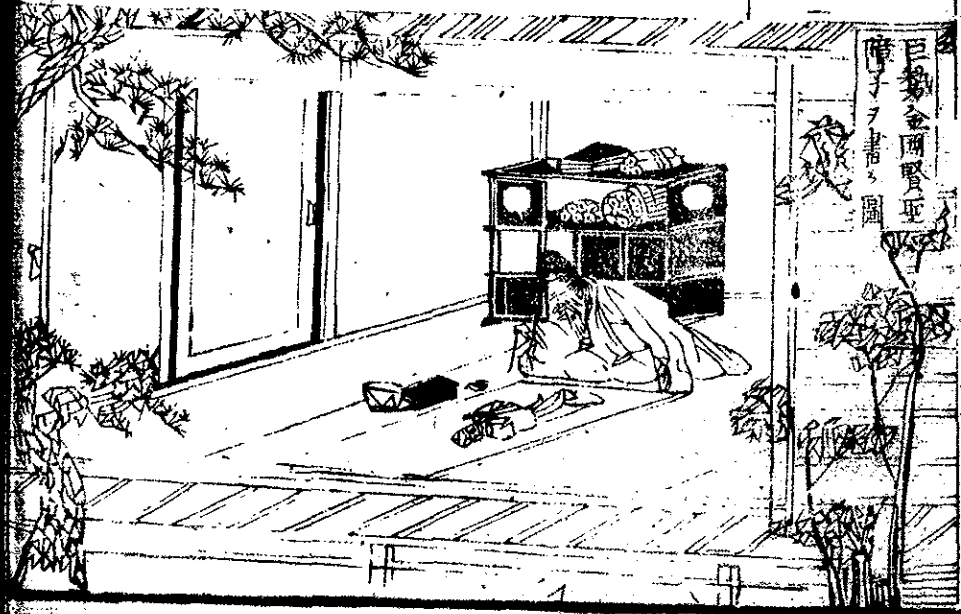
理レ、裁決流ル、ガ如レ、

天下望ヲ屬ス、時平等コ

レヲ嫉ミ、誣フルニ異

圖アルヲ以テス、天皇、其

ノ讒ヲ信レテ、道真ヲ大



巨勢金岡賢正
藤原時平の書寫圖

宰權帥ニ左遷ス、天下コレヲ寃トス、(天皇、心ノ

政事ニ留メ、温顔ヲ以テ、群臣ニ對シ、其ノ言ヲ盡

サレム、ス、嘗テ寒夜ニ方リ、御衣ヲ脱レテ曰ク、凍

餘ノ民以テ想フベキナリ、又ニ、後世稱シテ、延

喜ノ政トイフ、延喜ハ、當朝ノ年號ナリ、此ノ世ニ、

延喜式及三代實錄成ル、○天皇在位三十三年、位

ヲ皇太子ニ譲リ、尋テ崩ズ、年四十六

第六十二代朱雀天皇ハ、醍醐天皇ノ子ナリ、○平

將門、伯父、常陸、大掾、國香、ス、常陸ニ殺ス、武藏、權守

興世王、凶險コレテ亂ヲ好ム、將門延キニ謀主トシ

下總ニ反シ坂東諸國ヲ陷シ都ヲ猿島ニ建テ偽百官ヲ備ヘ自新皇ト稱ス是ノ時ニ當リテ藤原綏友既ニ難ヲ伊豫ニ起シ東西相應ニ天下騷然タリ因リテ藤原忠文ヲ征東大將軍トス未ダ至ラザルニ平貞盛藤原秀鄉等將門ヲ討グス尋テ橘遠保缺友ヲ伊豫ニ誅シ首ヲ京師ニ傳ヘ賊悉平クコレヲ承平天慶ノ亂トイフ承平天慶モ亦當時ノ年號ナリ○天皇在位十六年ニレテ位ヲ皇太弟ニ讓ハ天曆六年八月崩ス年三十

第六十三代村上天皇ハ朱雀天皇ノ同母弟ナリ

○天德四年九月禁中火久累世ノ寶器文籍多ク焚タタリ獨神鏡ノミ灰燼ノ中ニ在リテ形質損ビス○天皇嘗テ一老吏ニ問ヒテ曰ク朕カ治延喜ノ朝ト得失何如對ヘテ曰ク老吏何ヲカ知ラシ唯主殿寮進ル所ノ松明舊ニ比スレハ多クレテ率分堂ニ草生スルヲ異ナリトスルノミト天皇大ニ愧ヂテ益政事ヲ勤ム時ニ年號ヲ天曆トイハ故ニ後世治ヲ説ク者必延喜天曆ヲ稱ス○天皇在位二十一年ニレテ崩ス年四十二

第六十四代冷泉天皇ハ村上天皇ノ子ナリ○攝

繁延等爲平親王ヲ奉シテ、亂ヲ作サシコトヲ謀
ル事發レテ、流ニ處ス。○天皇儲貳タリシトキヨ
リ、心疾ヲ患フ、位ニ即クニ及ビテ、増劇シ、是ノ以
テ政、外戚藤原氏ニ歸ス。朝綱ノ振ハザルコト寔
ニ此ニ始マル。○天皇在位二年ニシテ、位ヲ皇太
弟ニ讓ル。寶弘八年十月崩ズ。年六十二。

第六十五代圓融天皇ハ、冷泉天皇ノ同母弟ナリ
在位十五年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓ル。正暦二年
二月崩ズ。年三十三。

第六十六代華山天皇ハ、冷泉天皇ノ子ナリ。○天

皇即位ノ初、心ヲ政事ニ委シ、紀綱肅然タル如御

悵子卒スルニ及ビテ、悲哀シテ已マズ。遂ニ藤原

道兼ニ訪ハレテ、潛ニ官ヲ出テ、華山ノ元慶寺ニ

入リ、落髮シテ僧トナル。○天皇在位僅ニ二年。寬

弘五年二月崩ズ。年四十一。

第六十七代一條天皇ハ、圓融天皇ノ子ナリ。○關

白藤原道長權ヲ專ニス。天皇心コレヲ疾ハト雖、

遂ニ制スルコト能ハズ。○天皇在位二十五年ニ

シテ、位ヲ皇太子ニ讓ル。寬弘八年六月崩ズ。年三
十二。

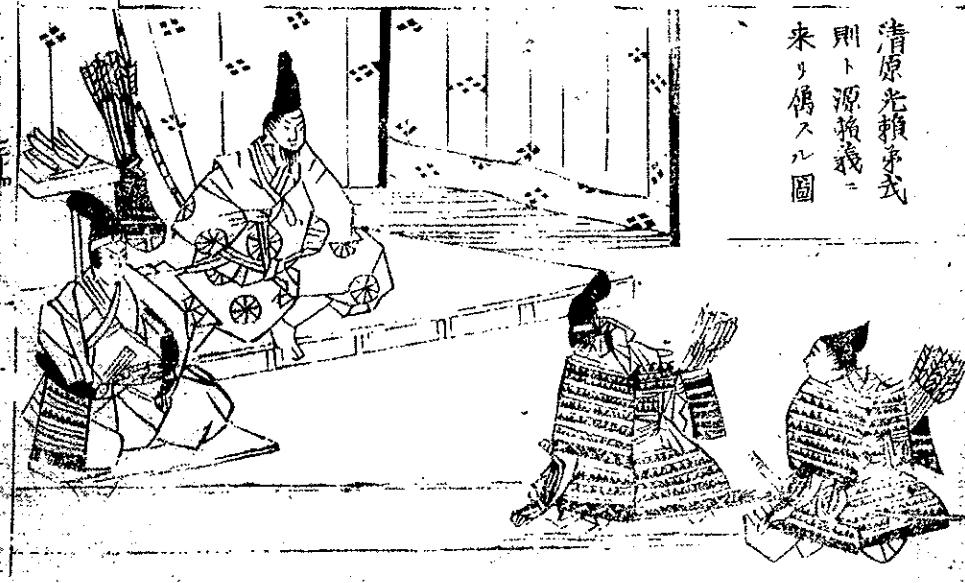
第六十八代三條天皇ハ冷泉天皇ノ子ナリ、○藤
 原道長益專恣ナリ、○天皇在位五年ニシテ位ヲ
 皇太子ニ讓ル、寛仁元年五月崩ズ、年四十二、

第六十九代後一條天皇ハ一條天皇ノ子ナリ、○
 三條天皇敕シテ子敦明親王ヲ立テ、後一條天皇
 ノ儲貳トス、其ノ統ヲ存センコトヲ欲スレバナ
 リ、既ニシテ、東宮位ヲ辭ス、道長奏シテ、小一條院
 ト號シ上皇ニ准シ皇弟敦良親王後朱雀天皇ヲ立テ、
 皇太子トス、道長朝ニ立ツコト、四十餘年一家ニ
 レテ三台ヲ出ダス、天皇皇太弟皆其ノ女ヲ生ム

所ナリ、○天皇在位、二十
 年ニシテ崩ズ、年二十九、
清原光賴弑武
 則ト源賴義ニ
 来リ偶スル圖

第七十代、後朱雀天皇ハ、
 後一條天皇ノ同母弟ト
 リ、○皇居火ク神樂
 ニ在リテ、毀損セズ、○天
 皇在位九年位ヲ皇太子
 ニ讓ル、尋テ崩ズ、年三十
 七

第七十一代、後冷泉天皇



ハ、後朱雀天皇ノ子ナリ、○陸奥ノ俘囚安倍頼時
亂ヲ作ス、源頼義ニ命ジテコレヲ討タシム、其ノ
子貞任又叛キ、勢益張ル、頼義出羽ノ豪族清原武
則ヲ招致シ、共ニ入り、討チテコレヲ平グ、コレヲ
前九年ノ役トノフ、○天皇在位二十三年ニレテ
崩ス、年四十四